

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 96 号
2016年 3月



第 144 回観察会～安達太良・仏沢ブナ林雪上観察会

2月28日(日)に第144回観察会～安達太良・仏沢ブナ林雪上観察会を行いました。参加者は15名でした。昨年と同じコースですが、今回は、出発前の珍事により、昨年の観察会では辿り着くことが出来なかったブナ林の散策が目的です。予報は曇りでしたが風もなく、時々陽ざしが差し込む穏やかな天候となりました。例年ですとこの時期はまだまだ厳冬期ですが、今年はまれにみる暖冬で昨年の観察会より1月近く早いにも関わらず積雪は、1mぐらいいは少ないようです。前日に降雪があったのでふかふかの心地よい雪中散策を期待しましたが、季節外れの暖気で水分を多く含んだ重い雪にスキーが沈み込み、一足に力が入りません。雪面ではヒメネズミやノウサギ、ホンドキツネなどのフィールドサインがみられ、セッケイカワゲラ(クロカワゲラ)も姿を見せてくれました。このカワゲラよりも大型で翅を備えた同類と思われるユキムシも一緒です。

今回の観察のポイントはコシアブラとタカノツメの冬芽の識別でした。芽だけの観察では曖昧でしたが、枝を切って髄を観察すると髄には隔壁のある空洞が確認され、コシアブラであることが分かりました。昨年、ウサギのような花芽が多くみられたオオカメノキはなかなか花芽が見つかりません。昨年の終了地点を超えて平坦な斜面を進むとミズナラの2次林が切れ、見通しの良い広場に出ました。その先には多くの枝を伸ばしケヤキの様にシンメリックで美しい姿を備えたブナが現れました。今回の目的地です。



ヒメネズミのフィールドサイン



クロカワゲラの仲間、あなたは誰？

懺悔の春待つ山歩き

長岡義人

今日は閏年の二月二十九日。自室の窓からどんより曇った暗い空を眺めながら、ポーッと昨日の楽しかった山行を思い出している。天気予報はこれから雨が降り気温も下がって、穏やかな昨日とは打って変わり、大荒れの冬型の気圧配置になるようだ。

さてここで私は、昨日一緒に同行してくれた十四人の皆さんに、懺悔しなければならない。高山の原生林を守る会主催の、第144回自然観察会「安達太良、仏沢尾根の冬芽の観察をしよう」の山行に参加するに当たり、私の動機が大変不純であったことをここに告白いたします。計画書を見てまず思ったことは、前回参加させていただいた霊山で、咲き誇っていた可憐な花々を觀賞するのなら、まだ喜びの興奮もあるだろうが、木々の花芽を見て何が面白いのだろう、ましてや葉にも芽があると聞いても全く興味は湧かなかった。だが、気の進まぬ私の気持ちが妻の一言で俄然沸き立つことになった。「山での昼ごはん、またすごいのかなあ」。それを聞いた我が心に、あの霊山での和洋中の沢山のメニューの豪華なランチが浮かんだ。私は告白します。この観察会に参加した一番の目的は、樹木の冬芽の観察なんかではありませんでした。あの豪華なランチにつられたのです。私は妻が前の晩から明日のためにと一生懸命作っていた弁当には、何の期待もしていませんでした。会員の皆さん、並びにわが妻よ本当に申し訳ありませんでした。ゴメンナサイ。

さて観察会当日の2月28日、参加者15名は7時30分に四季の里駐車場に集合して、3台の車に分乗させていただき、昨晚降った雪が凍結した土湯峠をスリッパしながら越えて、高森川林道入り口駐車場に到着した。そこでスノーシューを付けたのだが、なにしろはじめての経験、どう着けたらいいのか全く分からない。第一その前に付けるスパッツでさえ前後、左右、上下の区別もつかない。会員の皆さんに手伝ってもらいながらなんとか一応形がついたように見えたのだが、心は不安でいっぱい、参加したことに後悔しきりであった。私が余程心細い顔を見せたのか、「今日はテレテレ歩いて木を見るだけだから」という言葉をかけられた。確か前回の霊山の時とはダラダラ歩くだけとの説明を受けたのだが、今回はテレテレ歩き、「おいテレテレ歩くというのは、ダラダラ歩くのとどっちが楽なんだ。前回のダラダラ歩きの山登りは、俺には随分苦しかったぞ」と妻に囁くと、なにを言ってることやらこの人はという、バカにしたような目で睨まれてしまった。



ミズナラ2次林の緩斜面を登って



リョウブの果実をルーペで観察



コシアブラ



エゾゼミのミイラ



大ブナを背に



タムシバの花芽は輝いていました

は結構度胸がいる。怖い。スコップで橋のたもとまで道を造ってくれているし、妻は平気で先に進むし、ここで自分だけ帰るとはとても言えない。そんな追い詰められた気持ちになり、エイヤッとやけっぱちで雪の橋を渡った。

二月は私の大好きな季節だ。厳冬期が過ぎたこの時節の雑木林は、遠くから眺めるととても美しい。だがそんな雑木林も近くで見ると、寂しくなるだけだと想像していたのだが、いざその懐に分け入ってみると、そこは、陽の光が優しく雪面を輝かせ、優雅に木々を照らし、もうすぐ春が来るぞと希望の力を伝えてくれているようだった。

オオカメノキ(ムシカリ)の冬の芽は、まるで幼児が両手を挙げて万歳をしているような、可憐な姿をみせてくれ、ルーペで覗いたタムシバの芽は、上品な優雅さを湛えていた。そしてその小枝を噛むと爽やかな味と香りが口中に広がり。きっとこれらの芽たちは、木々の枝の先で苞に包まれ、じっと冬をやり過ごしなが、春を待ちわびていたのだろう、なんだか木々たちから頑張れよと声を掛けられたような気分だった。



この爪痕はまだ新鮮



穿孔性鱗翅目？



雪のテーブルを囲んで豪華な昼食

雪面に残された小動物の足跡(ヒメネズミ・ウサギ・キツネ)、木の皮につけられたクマのツメ痕、ウサギのオレンジ色のオシッコ、そしてそれがジャムの様な甘い匂いがする等々すべて皆さんに教えて頂いた。そうそうそれから忙しそうに雪の中を、出たり入ったりする雪虫の写真も撮りました。学んで知るとということがこんなに楽しく嬉しい事なのだと、この年齢になってやっと知りました。感謝、感謝です。

最後に、真っ青な空に真っ白な雪の衣をまとって浮かんでいた箕輪山、本当に美しかった。そしてなにより今回は豪華で美味しい昼食に大感激しました。皆さん本当にお世話になりました。

山が好き

鈴木昭子

若き日の私の山行き忙しく山へ行くため山下で足慣らし
いやなことありても我に山がある山に救いを求めて行
き来

芽吹きより一足早く満作は灯を点すかに林に映ゆる

黄金の細き花びら春冷えに身をよじり咲く満作の花

雑木々のあはひにわずかな陽ざし受けカタクリの花開
かむとする

春蘭の細き葉群の株元にうすきみどりの蕾つましく

六十里越えを歩みつつ見る花は照り葉のかげみ咲く雪
椿

雪椿君が好むと知りてよりあえかな花に心寄せきぬ

杉林の暗き山路を登り来てコナラの林に出会ふ明るさ

百名山テレビに見つつ思ひをくり若き日北岳に上り来
にしと

幾筋も霞たなはる穂高嶺の雪解の水は碧く澄みたり

雲海に十三夜の月照りわたり乗鞍岳は雪分けて聳えつ

霊山放射能汚染調査 2011～2015 年

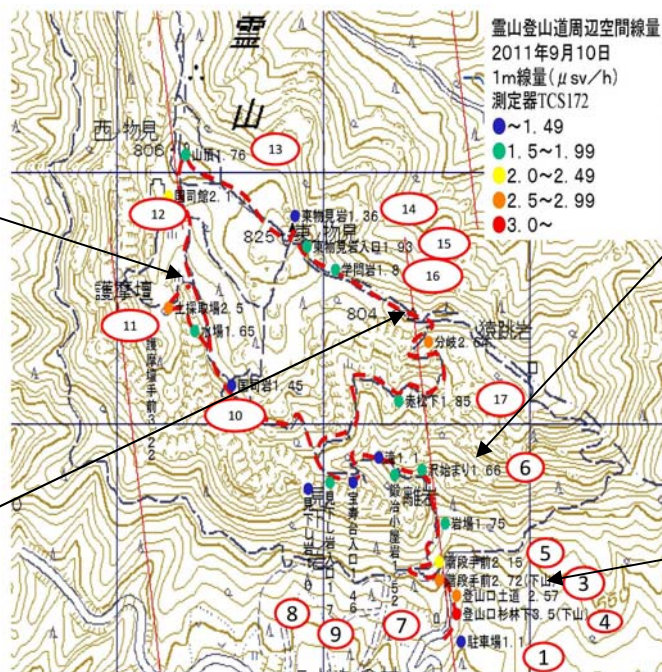
佐藤 守



イタヤカエデに着生したエゾイトゴケ(護摩壇分岐)



ハナホウキタケ



サワシバに着生したエゾヒラゴケ

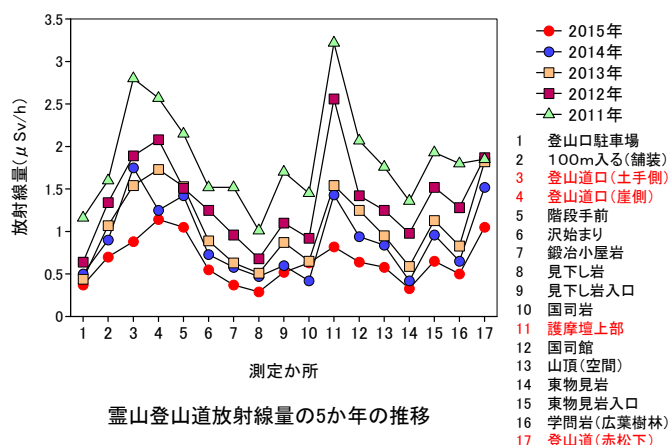


コスギゴケ、ナガヒツジゴケ、ハイゴケが混生した岩(杉下)

高山の原生林を守る会では原発事故が発生した2011年9月より、学習院大学・村松康行教授の協力を得て霊山の登山道17か所の空間線量の定点調査を続けてきました。2015年は小幡仁子さん、渡邊アヤ子さん、渡邊京子さんの女性陣にスコットランド大学連合環境研究センターのアランレスウエル博士が加わっての調査となりました。この5年間の空間線量の調査結果と登山道で採取したコケとキノコの放射性セシウム濃度の測定結果について報告します。

平均空間線量は2011年、1.85 μSv/hに対し2015年は0.65 μSv/hで2011年と比較すると35%までに減少しました。線量の低下が放射性セシウムの物理的半減期のみの場合には40%ですので、この5年間では放射性物質が雨で流されたことによる減少効果はあまり高くないようです。また、2011年に高かったところがそのまま2015年も高い結果となりました。空間線量は護摩壇とスギ、アカマツ付近が高いようです。

コケに含まれる放射性セシウム濃度は3000～130000 Bq/kgで約4倍の格差がありました。空間線量の高い所から採取したコケの放射性セシウム濃度が高いようです。キノコでは2011年の様に100000 Bq/kgを超えるような高濃度は検出されませんでした。環境中の放射能は20年以上調査を継続しないと全体像が見えてきません。改めて放射能による環境汚染の深刻さを認識する必要があると思います。



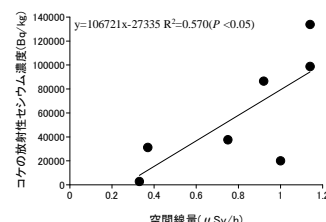
霊山登山道放射線量の5か年の推移



調査5年目で初めて親子登山者に会いました。

霊山に植生するコケ(蘚類)キノコの放射性セシウム濃度(2015年9月19日)

採取場所	植物名	着生部位	空間線量 (μSv/h)	放射性セシウム濃度 (Bq/kg 新鮮重)
登山道(崖側)	コスギゴケ	岩(杉下)	1.14	98900
登山道(崖側)	ナガヒツジゴケ	岩(杉下)	1.14	134000
登山道(崖側)	キノゴケ	岩	1.00	20200
沢始まり	エゾヒラゴケ	樹上(サワシバ)	0.92	86700
護摩壇上部	エゾイトゴケ(ヒロハツヤゴケ、ナガヒツジゴケ混在)	樹上(イタヤカエデ)	0.75	37700
東物見岩	ヒメシノゴケ(ツクシホウオウゴケ混在)	岩	0.37	31300
東物見岩入口	ハイゴケ	岩	0.33	2830
国司岩手前分岐	マルバマンネングサ(被子植物)	岩	0.64	1760
見下し岩入口	コテングダケモドキ	土壌	1.05	3040
学問岩(広葉樹林)	ハナホウキタケ	土壌	0.63	10000
学問岩(広葉樹林)	ムラサキフウセンタケ	土壌	0.60	9150



空間線量とコケ濃度の関係

鹿狼山から36 ～あれから5年～

東日本大震災から5年が過ぎました。5年という区切りの年のせい、テレビでも新聞でも東北沿岸部各地の様子が報道されています。高台移転が上手く進まず、人口流出が続く町があったり、仮設を出て新しい住居に入ったものの、見知らぬ人々の中で孤立し、生き甲斐を失ったりなど、苦しみ悲しみは尽きることはないようです。私が住む新地町でも100名を越える方々がなくなりました。住居を流出された方も数知れずおられます。3月11日という日は、これからも「あれから～年」という日になるでしょう。

私の家のすぐ近くに「すずめ塚応急仮設住宅」があります。新地町は高台移転がスムーズに進み、仮設住宅が2カ所に集約されました。ここはその2カ所の内の一つです。ペットを飼ってもよいということで、以前は犬を散歩に連れ出して、このあたりを歩いている方も多く見受けられましたが、今はそういう姿も少なくなりました。先日行ってみましたが、駐車場には車が数台止まっただけでしたが、空き家が多くなっているようでした。災害公営住宅もでき、新築の家が建ち並んでいますから、皆さん、引っ越されたのでしょう。先々で、どんな生活をされているのかは分かりませんが、安心・安全で穏やかな生活であることを願ってやみません。

私の伯母はあの津波でたった一人しかいない孫息子を失ってしまいました。毎日仏壇に向かって「今日も気を付けて仕事行って来なよ」と声を掛けていたのですが、今年の夏、心臓発作で倒れ、そのまま逝ってしまいました。孫をおんぶしてあやしながら歩いていた姿が思い出されます。あの世で孫とニコニコしながら話でもしていることでしょうか。伯父と一緒に暮らしているところが、伯父がしょぼりして誰とも話をせずにいる、心配だから仕事を辞めたと言っていました。私は悲しくて何も言うことができませんでした。あの津波がなければ、いとこの息子も元気に働いていただろうし、そんな孫を側で見ながら、伯母は田畑の仕事を続けていた気がします。

3月5日に久しぶりに鹿狼山に登りました。今年は雪も少なく、春が早いせいか、もうカタクリの葉が出ていました。来週には咲き出すかとも思いました。キブシの芽も膨らんでいるし、スイセンも咲きそうでした。春を感じながら降りる道々、ふと東の方を見て驚きました。山がすごい勢いで削り取られて減っていたのです。そこは、以前から採石場でした。「二鞍山」という名前の山だったのです。鹿狼山の東、大沢峠のすぐ脇にあります。実家の父母がこの山のことを聞きました。昔、駒ヶ嶺村と新地村、福田村が合併して新地町になるときに、駒ヶ嶺村では各地区で共有林として山を分けたのだと言っていました。「二鞍山」はどこかの地区の共有林であることが分かりました。砂利を取っているのだから、共有林の持ち主にはその代金が今でも支払われているのではないかと聞きました。今、沿岸部はものすごい勢いで堤防工事や道路工事が進んでいます。大型トラックが砂利や土を運び入れ、クレーンやブルドーザーやショベルカーが唸りをあげています。私の隣組の貸家に引っ越してきた方は「三重県から堤防工事のためにやってきました。3年位ここにいるようになります。怪しい者ではありませんから」と、挨拶に見えられました。

津波により沿岸部は堤防も壊れ、道路も流されたのですから、そこに新たに堤防や道路や防災緑地公園などを作るのは当然のことと言わなければなりません。しかし、「二鞍山」は間もなく無くなるでしょう。山が無くなれば名前も無くなります。里山が昔から人の手が入り、人の役に立つ存在であったというなら、無くなるのも致し方ないのでしょうか。空しさを感じるのは私だけかもしれません。エサがなくなり、空腹に堪えかねるとタコは自分の脚を食べるといいます。何かそんなタコになった気分になります。

人は豊かで快適な生活をするために自然に働きかけ、変えてきました。私も実にその一人であることに間違いありません。しかし、そのことにいつも疑問を持ち、自然に対して畏怖の念を持つ人でありたいと思います(2016/03/13 記)。

小幡 仁子



仮設住宅は空き家が多い



移転後、新築住宅が並ぶ



鹿狼山から見た採石場（二鞍山）



実際の採石場（二鞍山）



沿岸部の工事（新地町）

「大震災が教えてくれたもの」(17) 奥田 博

巨大防潮堤は何を生むのか

今年1月から3月にかけて宮城県七峰山登山口から深山、鹿狼山を経て大沢峠までの実際の歩行距離は31km、累積標高差2188mを歩いた。そこで目にしたのは、車の通行できる峠は、すべて山が切り崩されていた現場だった。亘理・山元両町と角田市の境尾根の道が無くなり歩くことが出来なくなったり、道が迂回したりする場所もあった。北から大沢峠、小斎峠、高瀬峠、明通峠の東、鴻ノ巣峠、割山峠、箕輪峠、七峰東側の烏鳥屋山などは、土砂が運ばれ、粘土むき出しのすさまじい状況。その元凶は、海岸線に見えた白いライン巨大防潮堤でした。

復興予算は、この5年で26兆円使ったとNHKで放映していた。かさ上げや堤防工事などインフラ整備で14兆円、産業復興で5兆円、被災者支援で2.5兆円、原発対策で3.6兆円。インフラ整備の内、1兆円規模の事業費をかけ、岩手、宮城、福島3県でつくる防潮堤の総延長は400キロになる。東京から仙台市に届く距離だ。

これだけの金が東北に使われたのだから当然、東北は空前のバブル状態で、皆の所得が増えて、町も活性化したはずなのだが、庶民にはまったく実感がない。岩手・宮城・福島3県の沿岸を総延長400キロにわたってコンクリート堤防で覆う総事業費約1兆円の万里の堤防では金は、土木関係者にだけ回っているのだ。それも現場で働く作業員には微々たる給料増加くらい。ゼネコンは自民党と同党の政治資金団体国民政治協会が平成25年2月、日本建設業連合会(日建連)に対し、4億7100万円の政治献金を要請していた。ゼネコンが潤い、それを自民党が吸い上げる構図は、昔も今も変わらない。

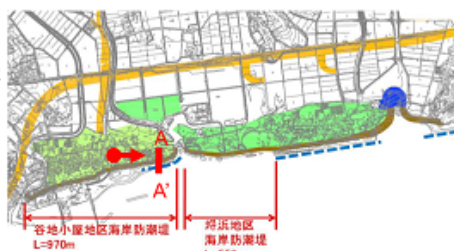
震災は少子高齢化で町村の過疎化を早めただけ。復興と言うが、元に戻っても、昔来ていた客が戻ると言っても、客も高齢化しているので、客も減衰して行くのは分かっていた。地方創生と叫んでいても、現実には限界家屋や限界集落が日本国中に挙げれば切りがない位に存在する。現在の避難地区は次第に狭まるだろう。しかし震災前から過疎化や限界集落化が進んでいたのに、震災によって拍車がかかってしまったのだ。もう元に戻ることはあり得ない。

万里の長城のような防潮堤だが、完成したのはまだ14%ほど。「美しい海と暮らしが分断されてしまう」そんな思いから建設に反対する住民もいる。海岸を覆うコンクリートが海辺の生態系に与える影響も心配されている。被災地の暮らしを守るはずの巨大な壁。先の亘理地塁に沿うように海岸線には白い防潮堤が肉眼でも見ることができる。その高さは陸前高田や大船渡の15mに比べれば、亘理・山元・新地・相馬辺りの7m前後と低い。それでも山が無くなるほどの土砂が必要なのだ。「人の命を守る」という大義名分で「里山の自然」と「海岸線の自然」の破壊が進む。

【新地町】

堀浜地区海岸防潮堤

谷地小屋地区海岸防潮堤



防潮堤横断面図



海岸線に並行して巨大な構造物を消波堤と呼び、その内側に防潮堤が築かれる (左) 箕輪峠の土砂採掘現場 (右)

吾妻・安達太良花紀行 64

佐藤 守

ニオイタチツボスミレ (*Viola obtusa* (Makino) Makino) スミレ科スミレ属)

クリ・コナラ林に植生する多年草。地上茎のあるスミレの仲間。タチツボスミレ、ニョイスミレ、アオイスミレ等の他の地上茎を持つスミレと比較して吾妻安達太良山麓では比較的植生は少ない。ニオイタチツボスミレはスミレと同様に里山に普通に分布するタイプである。しかし、スミレは標高 1000 m 付近の山稜でも見られるのに対し、本種の分布域は低山に限られる。

葉は互生である。葉形はハート型で、葉先は鈍頭で葉縁は規則正しい低鋸歯が並ぶ。根生葉は小さく花の時期は地際部に伏している。花の時期が終わると地上茎が伸び、大きめの茎葉を立ち上げる。タチツボスミレと比較して地上茎は長く伸びないので株は大形にはならない。

花は腋性で、根生葉の脇から花柄を伸ばし、淡い桃色を帯びた紫色の花を咲かせる。上弁は反転し、側弁はあまり開かない。唇弁は丸く大きい。花心部は白い部分が広く青い条線が放射状に広がる。白い部分は上弁にも広がり、果心部の白と周辺の紫とのコントラストが優美。上弁は基部から開くために雌しべの柱頭やオレンジ色の雄しべの付属器が良く見える。雄しべの葯は付属器の下に収まっている。雌しべの花柱の奥に蜜があり、訪花昆虫が吸蜜活動をする時に柱頭に虫が接触し花柱を押し上げるために、付属器と花柱の間に隙間ができ花粉が虫に付着する。花柄は毛じが密生する。

吾妻・安達太良山麓では里山の伐採が進みコナラを中心とする自然林がモザイク状に点在する。伐採地は日当たりがよく、スミレの群生地となる。沢沿いの伐採地の一角で初めて 1 輪のニオイタチツボスミレを見つけた。花を手ひらで包み鼻を寄せると心地よい微香を感じた。2012 年に会員の鎌田さんのお誘いで信夫山にスミレの散策に出かけた。信夫山はまさにスミレの聖地であった。公園脇の自然林と接した傾斜地ではニオイタチツボスミレが群落を形成していた。しかし、そのスミレの聖地は放射能除染廃棄物の仮置き場と化してしまった。原発事故により広範囲の自然が汚染されたが、これは原発事故が引き起こした人為的(行政的)環境破壊である。



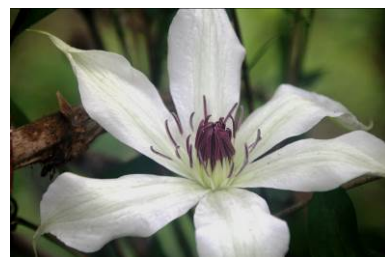
カザグルマ (*Clematis patens* C.Morren et Decnes grayana) キンポウゲ科センニンソウ属)

クリ・コナラ林に植生する落葉蔓性木本。同様の山域に植生するトリガタハンショウヅルも同じ仲間である。トリガタハンショウヅルは林内に植生するが、カザグルマは沢沿いのやや湿った林縁部に植生する。また、標高が高い所に植生するミヤマハンショウヅルや逆に、本種よりも低地に分布するゼンニンソウ、ポタンヅルも同属の植物である。カザグルマは福島県レッドデータブックで絶滅危惧種 I 類に指定されている。属名の Clematis は巻蔓を意味する。

葉は対生。小葉 3 または 5 枚からなる 1 回 3 出または 2 回 3 出複葉。小葉の葉形は紡錘形で葉の先端は緩く尖り、基部は葉柄側に流れる。葉縁は鋸歯が無く全縁である。トリガタハンショウヅルの葉は鋸歯がある。長い葉柄が巻蔓の様な機能を持ち他の植物に絡みつく。この葉柄の性質はセンニンソウ属のみの特性である。センニンソウ属はブドウの様な巻蔓は持たない。

花は頂性。新しい枝の先端から太く長い花柄を伸ばしその先に大輪の白い花を 1 個咲かせる。花弁はなく、花弁に見える器官はガク片に当たる。ガク片は 8 枚が基本とされるが個体による変異が多い。開花前の萼片は黄緑色で通常の植物のがく片の色合いを残す。花は多数の雄しべと雌しべを備える。雌しべ群を雄しべ群が囲み、開花すると外側から雄しべの花柱が開き、その先の赤紫の葯から花粉を放出する。花柱は白黄色の長毛があるためクリーム色に見える。外側から雄しべの開葯が始まると雌しべの花糸が伸び、雄しべ群から半透明の柱頭をのぞかせる。多数の雄しべと雌しべを持つ植物は、被子植物の花として古生的形態を保持したものとされている。同様の特徴を備えたホオノキと花の形態や開花の時に現れる雄しべと雌しべの営みを比較すると何か新しい発見があるのかも知れない。

花探索の帰りに、2 次林で初めてカザグルマの花に遭遇した。その翌年に会員の山内さんからカザグルマの群生地を見つけたとの知らせがあり、案内してもらった。その群生地を見て初見地のカザグルマが気になり、訪ねたが既に個体は消失していた。昨年、案内して頂いた群生地を訪ねたが、ほとんどの群落は消失し、残った群落も放射能除染廃棄物の仮置き場と思われる造成工事中で群落の生存は危機的状況にあった。



第145回自然観察会案内：塩手山・スプリングエフェメラル観察と大防波堤工事見学

日時：2016年4月10日（日）7：00～16：00

集合場所 小島の森駐車場 集合時間 7:00 参加定員 20名

内容 相馬市塩手山でスプリングエフェメラルを観察します。午後は大防波堤工事の様子を見学します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代(500円)

申し込み：4月9日(土)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

第146回自然観察会案内：斜平山・米沢のスプリングエフェメラル観察会

日時：2016年5月8日（日）7：00～16：30

集合場所 国道13号でん六跡駐車場(高速道路高架橋を過ぎて左側) 集合時間 7:00 参加定員 20名

内容 斜平山の新緑とスプリングエフェメラルを観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代(500円)

申し込み：5月7日(土)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア(NF 米沢と共同：詳細は佐藤守まで)

1. 実施日：6月18日(土)6時30分～17時30分(雨天時6月19日に順延)
2. 定員：10名(山岳での行動において自己管理のできる方)
3. 内容：天狗岩～西吾妻避難小屋湿地帯(Aコース:6名)と西大巔水場周辺(Bコース:4名)の誘導ロープの設置作業を行います。
4. 集合場所・時間：13号線旧でん六跡駐車場 6時30分
5. 参加費：1000円(ゴンドラ・リフト代の1部を負担願います)
6. 申し込み：6月17日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

編集後記に変えて：震災後5年に思う

2011年3月11日の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故が発生してから5年が経過した。津波と原発事故の衝撃は大きく、おびただしい数の人々の生活と人生に大きな影を落とした。原発事故は深刻な環境汚染を引き起こし、福島の美しい自然を誇りに思い謳歌していた県民は絶望のどん底に落とされた。事故を契機とし、日本の原発行政は大転換を図られるものと誰もが疑わなかったはずであった。5年が経過した今、建設から40年以上経過した原発でも新たな安全神話のもと再稼働が許されるまで原発行政は「復興」し、震災前は深刻な不況に喘いでいた大企業は除染や大防波堤工事などの公共復興事業に忙しい。一方、被災者間では除染廃棄物処理や津波被害のシンボルの扱いなどを巡る擦れ違いが顕在化している。忘却とともに浸透する無責任の拡散。この5年で顕在化したのは復興ではないように思う。環境回復への時間軸を取り戻すためにも、見え透いた大義名分や偏見を排して自然が示した警告を直視する眼を養い、起きてしまったことを記録し、後世に伝えることを忘れてはならない。



仮置き場の造成工事(信夫山)

忘却とともに浸透する無責任の拡散。この5年で顕在化したのは復興ではないように思う。環境回復への時間軸を取り戻すためにも、見え透いた大義名分や偏見を排して自然が示した警告を直視する眼を養い、起きてしまったことを記録し、後世に伝えることを忘れてはならない。

新年度の会費納入をお願いします：郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第96号 2016年3月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>

代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188 (夜間7時～9時)

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費(500円)を添えて上記まで

編集：佐藤・奥田・小幡